

研究ノート

北九州市の金石文集成三 戸畑区、八幡東区、若松区、八幡西区篇

中村修身

はじめに

長年に亘って集めておいた北九州市戸畑区、八幡東区及び若松区、八幡西区に所在する金石文を平成二十四年に整理したもので、北九州市の金石文集成前二回の続きでもある。若松区は平成二十三年、八幡西区は平成二十四年報告の追加である。あわせて前回の訂正も行った。

資料の紹介にあたって、各金石文には整理番号を区ごとに付けた。若松区と八幡西区は最終番号の続き番号とした。訂正は前回の番号をそのまま用いた。

物件ごとに、銘の書かれている物件、その現所在地、銘の書かれている部分そして銘の順に記し、各物件の紹介の後にそれぞれに対する雑記を加えた。

発表に当たっては原則として明治元年以降は収録しなかった。多くの資料で判読に悩んだが、今後の歴史研究の一助となればと思ひ史学論叢に発表する場の提供をお願いし、ここに発表するものである。別府大学文化財学科の諸先生ならびに貴重な御物や文化財を快く触れさせていただいた関係者の方々に深く感謝の意を表したい。

銘の紹介

戸畑区篇

1 水盤 戸畑区浅生二丁目2 飛幡八幡神社

元禄十四年^{辛巳}中秋

奉寄進御寶前

浦奉行葉山加介

雑記 当神社は飛旗八幡と言い元宮町に在ったが、大正九年に現位置に移転してきたことを考えると、飛旗神社とともに当水盤も移動してきた可能性は高いが、当神社に名護屋神社も合祀されており、それに関連する品々も置かれている。それらとともに当水盤も置かれていることになる。

2 円柱 戸畑区銀座一丁目9 帆柱四国二十番(築地蔵堂)

寛保三亥七月吉日

奉寄進

大橋次郎右衛門

雑記 灯塔の柱部の残片と思われる。

3 江口国境石控石 戸畑区中原東二丁目二 中原市民センター保管

正面

遠賀郡中原村抱

左面

従此控石江口壹番御境石

東外面正半迄十五間卯ノ

六分ニ當但壹間六尺五寸繩

裏面

寛政九丁巳年八月建之

雑記 平成六年二月三日に坂本讓工務店の自宅(中原東一丁目9)を改造中に、床下より礎石に転用されているのを発見。地元有志によって中原公民館(現中原市民センター)に移設され保存されている。北九州市立自然史歴史博物館保管の控石(4)と大きさや書体など極めて類似している。寛政九年に一緒に造られたとみられる。

4 境川口国境石控石 八幡東区東田二丁目4

北九州市立自然史歴史博物館保管

正面

寛政九丁巳年八月建之

左面

従此控石江口壹番御境石

東外面正半迄七十貳間寅

三分ニ當但壹間六尺五寸繩

裏面

遠賀郡中原村抱

雑記 西日本新聞(昭和三十四年八月二十二日版)に「いままで行方がわからなかった国境石の控え石を戸畑市内中原九州電力発電所の診療所の庭で発見した」と報道している。本来の位置は不明とすべきと思うが、多くの学術書は九州電力診療所(中原九州電力発電所の診療所のこと)を元位置としている。なぜであろうか。その後中原八幡神社など処々を転々とし現在は北九州市立自然史歴史博物館に保管されている。幅三十三センチメートル、発見時地上の高さ九十五センチメートルの大きさである。大きさや書体は中原市民センター保管の控石(3)と極めて類似している。寛政九年に一緒に造られたとみられる。横に割れ二片となっている。

5 天満宮鳥居 戸畑区菅原一丁目10 菅原神社

右柱

奉寄進 林清次郎

當所 林□治

正面額

天満宮

左柱

享和二戌正月吉日

6 西大山笠勾欄擬宝珠 八幡東区東田二丁目4

北九州市立自然史歴史博物館保管

文政十二年己丑年三月吉日

雑記 戸畑祇園の西大山笠に使用されたもの。平成期、西山笠は浅生、戸畑、菅原で受け持っている。

7 境川江口国堺石 小倉北区中井浜

石柱

従是西筑前國

台座

漁場基点

二付保護

事ヲ施スモノ

ナリ

昭和六年十月

戸畑浦漁業組合

若松浦漁業組合

平松浦漁業組合

(イロハ順)

工事監督員福岡懸農村技干

山田重登

雑記 天保十二年改建と伝えられている。昭和六年に境川左岸(筑前領)から右岸の現位置(豊前領)に移されたものと思われる。境川の流路を掘り変えたとの説がある。しかし、大日本帝国陸地測量部の明治三十一年足岡同四十一年製版「若松」や国土地理院昭和十五年修正測量、昭和五十七年発行「八幡」の地図などから判断して当該地(境川河口)付近の流路の変更はありえない。小倉北区中井浜にある国境石は昭和五十

年代に複製されたものであり、台座の銘は追刻である。国境石本体は北九州市立自然史歴史博物館に保管されている。

8 中原国境石 戸畑区千防一丁目1 旧区役所跡

従是東豊前國小倉□

雑記 元禄十五年に建設、天保十二年に再建と伝えられている。当国境石の元位置は、旧境川に架っていた宮川橋近く小倉側(現戸畑区中原東三丁目)と思われる。昭和三十三年ころ区画整理事業の際に、当該地付近の現境川は旧境川の東側約六十メートルに掘り変えられた。

9 金毘羅池国境石 戸畑区金毘羅町 金毘羅池中

右面

文化十四年丁丑三月 再建

正面

従是西筑前國

裏面

遠賀郡中原村抱

雑記 昭和四十四年に金毘羅池の堤防の嵩上げにもなって鳥状台を造られたのを皮切りに台は何度か造り替えられ大きくなっているも、国境石の平面元位置は変わっていない。現在も境界線の戸畑区(筑前国)側にある。

10 八幡宮鳥居 戸畑区中原東三丁目12 中原八幡神社

右柱

寄進 氏子中

正面額

八幡宮

左柱

文政十二己丑三月吉日

十二月廿八日

雑記 自然石であることなど形式的に墓と云うべきなのか、供養碑と言
うべきなのか検討を要する。雲門院は慶長七年に小笠原秀政五男として
信州飯田城にて生まれ、小倉藩小笠原忠貞公の弟小笠原忠慶である。寛
永十五年二月島原の乱に士大将として出陣、勲功を上げ七千石を賜る。
当地は、江戸時代は豊前国企救郡高槻村である。

八幡東区篇

1 坂牧嘉長墓 八幡東区高見三丁目7 谷口霊園

右面

寛永五年戊子年

正面

大玄院眞鑑正光居士

左面

十一月十五日

3 坂牧忠増墓 八幡東区高見三丁目7 谷口霊園
貞享五戊辰春
捐館 本覺院殿源忠正白大居士神儀
二月初三日

雑記 忠増は小笠原忠貞公五男として生まれ、家老坂牧兵右衛門正俊の
養子となり坂牧監物と称した。豊前国企救郡高槻村で逝去し、同村松林
(八幡東区宮の町二丁目10) に葬られた。墓は昭和期に八幡東区宮の町
二丁目10から谷口霊園に移された。

雑記 原三左衛門正久の末子で、坂牧長鎮の養子となる。形式から判断
して後世に再建されている。元位置は、八幡東区宮の町二丁目10である。
そこは、江戸時代は豊前国企救郡高槻村である。

4 八幡宮鳥居 八幡東区祇園二丁目5 仲宿八幡宮
右柱
神門一區岡懸前田邑産民等建立

2 小笠原忠慶之碑 八幡東区宮の町一丁目6 小笠原氏墓地

延寶三年歲次壬卯

雲門院機叟新大居士之碑

八幡宮
左面
寶永四年仲商吉且 祠官波多野雅知拜書

雑記 江戸時代行政区画として縣は使っていないので、宗教的な背景に基づき記載例である。

5 水盤 八幡東区祇園二丁目5 仲宿八幡宮

寶永四年九月吉日

庄屋 新十郎

雑記 『波多野家文書』に当水盤のことを「手水鉢 横五尺八寸、建三尺五寸 宝永四年奉納す。日光山石の鳥居当村石場より江戸へのほせ玉ふとき、御額共に刻立になりしか、いかなることにや額石船にのらずして波戸場に在しか、産民手水とす」と記しているが、不可思議な点が多い。鳥居の額としてはきわめて大きい。一部未加工である。

6 小笠原重長墓 八幡東区宮の町一丁目6 小笠原氏墓地

右面

寶永五年己丑年

正面

圓明院殿寂山智照居士

左面

九月初三日卒

雑記 圓明院殿は小笠原忠慶の三男である。元禄元年に千四百五十石を賜った。当地は、江戸時代では豊前国企救郡高槻村である。

7 小笠原長武墓 八幡東区宮の町一丁目6 小笠原氏墓地

右面

正徳元辛卯年

正面

玄照院無端了徹居士

左面

七月初三日

雑記 玄照院は小笠原忠慶の長男長武である。宮の町一丁目6は、江戸時代では豊前国企救郡高槻村である。

8 坂牧長鎮墓 八幡東区高見三丁目7 谷口靈園

右面

正徳三癸巳年

正面

高済院義寛正恩居士之塋

左面

十月初六日

雑記 高済院は坂牧忠増の二男長鎮である。後に小笠原の家門をゆるされ小笠原監物長救と号す。寛文十二年千五百石を賜った。元位置は八幡東区宮の町二丁目10であり、江戸時代は豊前国企救郡高槻村である。

9 小笠原重長墓 八幡東区宮の町一丁目6 小笠原氏墓地
享保十六年

素光院權大僧都法印隆範和上之塔

八月十又九日

雑記 素光院は小笠原忠慶の二男である。大和国吉野の五台山桜本坊の住職を勤めた。当地は、江戸時代は豊前国企救郡高槻村である。

10 源水信士墓 八幡東区田代

享保巳申十天

積 源水信士之位

二月□日

原田藤右衛門

雑記 普通は墓地に埋葬するが、当墓は自然石を墓標にした単独埋葬である。享保巳申十天が享保十年とすれば干支が違う。国境問題で憤慨して割腹した人物の墓といわれている。

11 水盤 八幡東区宮の町二丁目 高槻天疫神社

明和三^丙天^戊

奉寄進

十月吉

雑記 明和六年の時点、当地は豊前国企救郡高槻村である。

12 春日信映墓 八幡東区東台良1-1 大正寺墓地

右面

寛政四年壬子九月廿二日

正面

大成全功居士

左面

春日藏人源信映

雑記 『倉城大略誌』『府倉俗話伝』や『諸志系譜』などを著した春日信映は小倉藩士で小笠原忠総に仕えた。大正六年に、小笠原藩ゆかりの大隆寺と圓照院の二つの寺が合併し大正寺として当地に移る。その折、小倉城下大隆寺にあった春日信映墓も現位置に移された。春日信映妻墓、春日信映墓、春日信次墓は並べて建てられている。

13 八幡宮鳥居 八幡東区大蔵二丁目 乳山八幡神社

右柱

奉造立石神門壹區 本願主大蔵邑産子中

大宮司従五位下橘朝臣徳風

世話人

白石久治朗

蔵田政治

久住利平

引田善助

正面額

八幡宮

左柱

寛政十三辛酉年二月日

庄屋原田小助
石工貝掛唯八

14 八幡宮鳥居 八幡東区諏訪二丁目一 枝光八幡宮
右柱

生民荷克種克紀以弗無子

願主芳賀卯右衛門種統

當村産子中

正面額

八幡宮

左柱

大宮司波多野加賀頭藤原朝臣重華

龍次文政丙戌歳三月吉辰

雑記 右柱の一行は珍しく草書である。

15 常夜燈 (一対) 八幡東区春の町四丁目 豊山八幡神社

右側燈正面

豊山八幡宮

左面

大宮司波多野常成

裏面

柴田興助愛俊

大羽伊右衛門保壽

左側燈正面

豊山八幡宮

右面

天保三千辰日祭

裏面

大和兵衛重就

白石釜衛門員利

16 半鐘 八幡東区東台良町 19-1 大正寺

筑前志摩懸今津

無量山萬徳禪寺

小鐘宗玉首座化

縁置現住勝福兼

萬徳芳嶺宗根誌

天保九年戊戌七月吉

願以此功德

普及於一切

我等興衆生

皆共成佛道

冶工山鹿平十郎包永

雑記 半鐘の形が特殊である。熊本県山鹿市(肥後山鹿)鑄物師の作品である。先代住職が文化財に造詣が深かったので当寺に当半鐘があるのではと伝わる。

17 神田奉納碑 八幡東区春の町四丁目 豊山八幡神社

献主庄屋

柴田興助

愛俊

産神社御備

字宮ノ前

一田式反壺畝四歩

天保九戊戌献之産神社外

不村用追年御備満処時

付役江依頼申視定村皆

者ハ蒙神罪□

敬主

二代

柴田興

利直

18 水盤 八幡東区大蔵二丁目 乳山八幡神社

右面

文化十戊二月吉旦

正面

奉献

左面

上ノ原 川村氏

19 八王寺第一国境石 八幡東区八王寺町

右面

天保十五年甲辰三月再建之

正面

従是西筑前國

左面

遠賀郡中原村抱

雑記 八王寺第一国境石と呼ばれている。元位置は金毘羅池の南端に当たる旧八王寺火葬場北東であると聞く。現在の八幡東区と戸畑区と小倉北区境あたりであろうか。現在、当国境石は八幡西区相生町の八幡西生涯学習センター前に移設されている。

20 八王寺第二国境石 八幡東区東鉄町5-20 芳賀晟寿氏邸
従是西筑前國

雑記 八王寺第二国境石と呼ばれている。八幡東区高見五丁目1に九州専門学校を建設する折に、芳賀氏の先代が地内にあった国境石を自宅裏庭へ移設、今日に至る。九州専門学校跡には福岡県立九州視覚特別支援学校が営まれている。元位置については「文久御境絵図」を参考とされたい。

21 八王寺第三国境石 八幡東区東鉄町4-26 芳賀茂之氏邸
従是西筑前國

雑記 八王寺第三国境石と呼ばれている。八幡東区高見五丁目1に九州専門学校を建設する折に、芳賀氏の先代が敷地内にあった国境石を自宅前庭へ移設、今日に至る。九州専門学校跡には福岡県立九州視覚特別支援学校が建っている。元位置については「文久御境絵図」を参考とされたい。

22 八王寺第四国境石 八幡東区高見三丁目4
従是西筑前國

雑記 昭和二十八年の大水害にともなうて元位置に近い現位置に移施された。

23 三条国境石 八幡東区三条
従是西筑前國

雑記 小倉城下から黒崎宿への道が横を通っていた関係から筑前国と豊前国の国堺石の内では最も大きく立派(高さ三二九センチメートル、最大幅五一センチメートル)である。現在の国境石は天保五年再建という。区画整理の折り、元位置から数メートル移動したという。台座は区画整理の折に造られたと思われる。

24 大蔵国境石 八幡東区西本町 八幡図書館敷地内
□□東豊前國小□□

雑記 途中で折れていて頭部がない。従是東豊前國小倉領と刻まれていると思われる。元位置は八幡東区大蔵一丁目である。大田蜀山人が文化二年に著した『小春紀行』のなかに「坂を少し下りて左は岨、右は田なり、右の方に自是西筑前領、左の方自是東小倉領と記せる石表あり、国境に堺松として松一本あり」と記している。この二基の国境石は八幡図書館敷地に移設されている二基の国境石であり、道を挟んで立っていたことは「遠賀郡往還図」からも知ることができる。

25 大蔵国境石 八幡東区西本町 八幡図書館敷地内
□□西筑前國

雑記 途中で折れていて頭部がない。従是西筑前國と刻まれていると思われる。元位置は八幡東区大蔵一丁目である。大田蜀山人が文化二年に著した『小春紀行』のなかに「坂を少し下りて左は岨、右は田なり、右の方に自是西筑前領、左の方自是東小倉領と記せる石表あり、国境に堺松として松一本あり」と記している。この二基の国境石は八幡図書館敷地に移設されている二基の国境石であり、道を挟んで立っていたことは「遠賀郡往還図」からも知ることができる。『筑前国御境目日記』の天保五年六月の項に「遠賀郡大蔵村抱往還御堺石(中略) 将また筑前領と有之候を筑前國と彫改」と記している。

26 国境石 八幡西区宮の町一丁目3
右面

昭和十五年一月達之
正面

豊前
旧 筑前 国界

左面
中畑区劃整理組合

雑記 区画整理にともなうて旧国境に新設された国境石であろう。本来の位置は不明。明治以降に肥前國と筑前國の旧国境に新設された国境石もこの形式である。

27 国境石 八幡東区田代荒谷口
従是西筑前國

雜記 二つに折れていたものをセメントで修復している。江戸時代の田代から荒谷を通り畑にいたる道の西側にたっている。

28 国境石 八幡東区田代荒谷越西尾根筋
従是西筑前國

29 国境石 八幡東区田代境ヶ谷
従是西筑前國

雜記 原物の確認ができなかったので、銘は昭和四十二年北九州市教育委員会発刊『豊前・筑前の国境石』によった。

30 祇園社鳥居 八幡東区祇園町二丁目五 仲宿八幡宮
右柱

文政十年歲次丁亥十一月中泮大宮司黒崎陸奥守橘朝臣常成

正面額

祇園社

左柱

在昔麻生氏社殿祭祀 願主岡縣前田邑産子中
此郷内祇園之本宮也

雜記 江戸時代行政区画としては縣を使っていないので、宗教的な背景

に基づく記載例である。

31 石祠 八幡東区祇園町二丁目5 仲宿八幡宮

正面

前田村庄屋

大和平右藏

尾倉村庄屋

柴田理友利直

祭主

新地抱村中

左面

嘉永五壬子六月

大宮司 波多野陸奥守

雜記 当祠は元来前田海岸の「濱宮」に在ったが、官営製鉄所建設の折前田小学校に移され、昭和四十四年に小学校改築にともなつて仲宿八幡宮に移された。前田海岸には海の安全と海の幸を願つて祭られたものと思われる。

32 灯燈 (一対) 八幡東区宮の町二丁目 高槻天疫神社

右側灯燈の右面

嘉永五壬子二月

正面

當村 氏子中

左面

奉獻

左側灯燈右面

奉獻

正面

當村氏子中

裏面

嘉永六^{癸丑}吉日

雜記 嘉永六年の時点、当地は豊前国企救郡高槻村である。

33 旗柱 八幡東区祇園町二丁目五 仲宿八幡宮

安政七申三月日

若松区編二

36 石碑 若松区鬼ヶ坂 慈眼寺

正面

天文廿一^{□□}歳 施主

本願 安寛 爲淨阿弥禪門菩薩

□妙等禪定尼造修

十月吉日 敬白

左面

寄□阿弥禪門証

□□□□□覺□□

雜記 正面一行目の銘「天文」は詠めるものの全体に判読しづらい。識者の確認を期待する。左面の前の石が邪魔して詠みづらいが石を動かせば読める。

37 日吉神社鳥居 若松区東二島一丁目 16 日吉神社

右柱

神門一隻 岡懸二島邑及 頓田邑 江川 産民等建立

畠田邑 脇浦

正面額

日吉神社

左面

元禄十五折六月初日 社司 伊高重久拜書

雜記 江戸時代行政区画としては縣を使っていないので、宗教的な背景に基づく記載例である。

38 白山神社鳥居 若松区赤島町 白山神社

右柱

石神門兩柱 藤木邑産子等奉健立

正面額

白山神社

左柱

寶永三祀六月十八日 祠官大藤氏藤原武成

石工泉州貝掛邑□内氏

39 石地藏 若松区小竹財ノ峠 道端
台石右面

円次

六次子

六市

新市

正面

次良次

内小竹

弥五市

念仏中間

吉□□

金八

左面

久市

一□□

□市

□□□

久吉

□□

八市

裏面

□□

正徳四甲午次

□八

閏二月十四日

孫平

□左門

雑記 外小竹と内小竹をつなぐ財ノ峠にある。当地蔵は首より上が打ち割られている。おそらく廃仏毀釈によるものと思われる。

40 地藏菩薩 若松区小敷 汐分け地藏
台座右面

五三良

□三良

儀三次

次良八

次良吉

〔原文人名横一列〕

正面

地藏菩薩

左面

善作

忠□

藤七

孫□

忠八〔原文人名横一列〕

裏面

施主

小□也

享保元申天

八月上旬

雑記 汐分け地藏は、汐の満潮時に遠賀川川口側からの汐と洞海湾側の汐がここでぶつかり、干潮時にはここから汐が分かれることから汐分け地藏と言う。再建前の位置（現位置から約一〇〇メートル東）から干満ははじまっていた。

41 石地藏 若松区小竹財ノ峠 道端

台座正面

安永二年

奉建立

□□□□

□川

若者中

雑記 十三塚の一部、外小竹と内小竹をつなぐ財ノ峠にある。当地蔵は首（正確には胸）より上が打ち割られている。おそらく廃仏毀釈によるものと思われる。

42 鹽土老翁塔 若松区東二島一丁目 16 日吉神社
右面

天明三年卯十月
正面

鹽土老翁

43 戸明宮鳥居 若松区蛭住九七四 戸明神社

右柱

於秣雄廟肇開磐戸蜻蜒之洲永安国土
爲中乃和莫有神怒華表的的新以規矩

正面額

戸明宮

左柱

蛭住村 高須村
有毛村 頼田村 産子中
大鳥村 岩屋村
天明八戊申歳九月 大宮司幡掛但馬守平元宣
石工 田中吉郎

44 石垣奉納 若松区東二島三丁目 13 徳雲寺
石垣施主

東外 大庭伊七郎

西外 大庭惣七

中道 惣旦那中

石段施主

波多野善八郎

天保二卯六月

當山十世聴譽代

45 天満宮鳥居 若松区畠田三丁目 天満宮
右柱

奉再建石門一基 當谷中

保正 大庭孫四郎

柴田半平

白橋市藏

柴田市次

有田傳助

有田大次郎

有田伊三郎

加藤与八

有田市右工門

正面額

天満宮

左柱

柴田五右門

有田甚九郎

白橋彦藏 有田又助

天保六年未八月吉日 白橋利七 白橋宗助 利八

柴田源次郎 有田助右門 與三郎

有田卯三郎 柴田和市 與市

有田七藏

加藤正八

46八劔宮鳥居 若松区塩屋 八劔神社

右柱

天保六^乙_未八月吉辰建立 保正 吉田惣治郎種勝

組頭 吉永治八則之

同 安武直吉信是

忝井伊八

和田右工門

山瀧□□

松井大□衛門

三好安平

吉田千七

吉永伊四郎

發主 多々野儀八

正面額

八劔宮

左柱

宮司幡掛安藝守從五位下平朝臣玉樹

多々野儀助

福瀧茂右衛門

吉田伊吉

伊藤正藏

吉田村三良

和田茂吉

石工 太閣水

同 貝掛茂郎秀吉

貝掛嘉一良義廣

松井□右衛門

吉永□郎

安武正平

忝井多八

杉木茂一

忝井久平

雑記 北九州学術研究都市北部土地地区画整理事業で旧塩屋村の農村景観は完全に失われてしまったが、当八劔宮は往時の位置にある。

47灯燈(一对) 若松区島田三丁目 天満宮

右側燈右面

天保九年

戊戌

八月吉日

正面

獻燈

左面

當谷中

雑記 左側の燈ともに同銘が彫られている。

48 灯塔 (一対) 若松区浜町一丁目2 恵比須神社境内

右側灯塔柱右面

萬屋□□

願主 小倉屋莊七

小松屋與八

正面

奉寄進

左面

享和三_亥癸三月吉日

裏面

□□門

世話人

□□

右側灯塔台座正面

石

伊兵衛

工

左側灯塔柱右面

享和三_亥癸三月吉日

正面

奉寄進

左面

角屋□助

願主 角屋高□

萬屋助治

裏面

宅右エ門

世話人 宗 平

儀 七

49 水盤 若松区惣牟田 石峰山神社参道

奉寄進

天保九戌八月

50 水盤 若松区頓田 日吉神社

文化十□年

奉寄進

内平

立道

51 大乘妙典一字一石塔 若松区畠田 禅覚寺境内

正面

大乘妙典一字一石塔

裏面

文政六年未八月吉日

一世禅眼和尚代書寫

六世□眼造立之 天□譽□

福田□多

同 甚平

竹□侍□

吉竹藤八

石寄且助中

52 水盤 若松区東二島三丁目13 徳雲寺

文政十一戊子天

正月講日建之

垢離盤

施主若講中

53 祠 若松区惣牟田 石峰山神社参道

左面

文政七^甲五月吉日□平

房吉

西町子供中 平助

世話人 儀吉

伊之吉

峯吉

鷺吉

雑記 江戸時代後半期の子供教育の一面が覗けて興味深い。

54 旗柱 若松区惣牟田 石峰山神社参道

文化十一年甲戌十月十二日

雑記 旗柱二本あり、内右側一本に銘がある。

55 戸脇宮鳥居 若松区乙丸 戸脇神社

右柱

文化十三年丙子正月吉辰 氏子中 保正 林吉儀三郎吉量

正面額

戸脇宮

左柱

石工□崎傳七吉久

大宮司従五位下波多野駿河守平朝臣春樹

56 灯塔 (一对) 若松区赤島町 白山神社

右側灯塔右面

天保三千辰年九月吉辰

正面

献燈

左面

大保長格

副田太治平永勝

雑記 左側灯塔にも同銘が刻まれている。

57 灯塔 (一对) 若松区赤島町 白山神社

右側灯塔右面

天保四年癸巳十一月吉辰

正面

献燈

左面

佐伯齋七

左側灯塔右面

佐伯齋七

正面

献燈

左面

天保四年癸巳十一月吉辰

58 灯塔 (一対) 若松区東二島二丁目 16 日吉神社

右側灯塔右面

天保四年癸巳九月

正面

献燈

左面

大庭伊七郎重一

裏面

大庭弥七貞正

大庭治四郎重則

大庭弥三郎國重

左側灯塔右面

天保九戊戌年四月吉辰

正面

献燈

雑記 左右の塔は本来別の組み合わせであったが、何時の時点かで一対とされたものである。

59 祠 若松区童子丸一丁目 7 (字神の元) 白山神社古宮

右面

維□天保八丁酉年春□三月之

建□海之資□欲□開發新

資譽□謹前淡□並□

□子組□田代

□爲樂徳久發□門□

是旅□申以□當之辺菱

□武□田□遊□小

扉之譽□市杜□神

施主国神長弥子孫之受榮□□

左面

願主當邑保正

副田清三郎宋保

台座正面

靈龜貳年御座

白山神社古宮

昭和参拾八年拾月再建之 (台座正面全て横書き)

雑記 『筑前国続風土記拾遺』の藤木村の項に「白山明神社松崎山に在

産神之所祭三座伊弉册尊 菊理姫命事解男命之社伝る 始の祠ハ村西神
ノ元昔二鶴村日吉社より行幸
ありし時の現宮の地なりに小竹村の白山の神を勧請し女體権現と号し祭りし
に寛永五年今の地に遷し白山権現と改称せりという祭礼八月十個日」な
どと記されている。台座正面の銘は追刻である。

62 狛犬 (一対) 若松区浜町一丁目2 恵比須神社境内
右側台座右面
願主船持中

60 旗柱 若松区東二島一丁目16 日吉神社

正面

献 本村若者中

裏面

天保十二年辛丑年秋九月辰吉

61 狛犬 (一対) 若松区東二島一丁目16 日吉神社

右側狛犬正面

献

左面

願主 大庭伊七郎重一造立

裏面

天保十五年甲辰八月吉日

左側狛犬正面

献

裏面

天保十五年甲辰八月吉日

右面

男 大庭伊右衛重次造立

奉献 (横書き)

左面

弘化三年丙午二月吉辰

裏面

博多屋幸六

残寫屋惣五郎

東屋大次郎

萬屋兵次郎

河口屋萬作

左側台座右面

弘化三年丙午二月吉辰

正面

奉献 (横書き)

左面

海上安全

裏面

保正

松井一内安雄

船支配

瓜生左四郎盛信

石工下関新地

大森藤助善明

63 旗柱 若松区赤島町 白山神社

右面

〔この面確認できず〕

正面

奉寄進

左面

中野久六〔以下確認できず〕

裏面

嘉永二年乙〔以下確認できず〕

雑記 年号はことなるけれど、65と関連あり。

64 周庵先生塚 若松区脇ノ浦 共同墓地

右面

嘉永四亥七月七日

長府産福田姓

正面

周庵先生塚

弟子中

雑記 江戸時代末期の子弟教育の一面を見ることができ。

65 旗柱 若松区赤島町 白山神社

右面

中野久〔以下確認できず〕

正面

奉寄進

左面

〔この面確認できず〕

裏面

安政三年丙〔以下確認できず〕

雑記 年号は異なるけれど、63と関連あり。

66 井戸枿 若松区塩屋二丁目5-6 小森慎吾氏邸

井戸枿内側

安政四年

巳国□

五月吉日

雑記 北九州学術研究都市北部土地区画整理事業の際、江川傍で旧塩屋集落の入り口に当たる若松区塩屋七八八に在った井戸の石枿を現位置に移転。塩屋七八八は塩屋村の代々庄屋を勤めていた吉田家が居住していた。

67 灯塔（一对） 若松区東二島一丁目16 日吉神社

右側塔右面

安政四年丁巳八月吉日

正面

献燈

左面

願主 保正 波多野茂右衛門永元
男 波多野善太郎元重

左側塔右面

波多野茂義遺志

波多野哲二郎建立

正面

献燈

裏面

明和十一年八月吉日

右側塔台石裏面

石工 小田萬作

68碑 若松区東二島三丁目13 徳雲寺門前

右面

文久元年辛酉三月建之

正面

南森阿彌陀佛

左面

施主 波多野茂右エ門永元

69水盤 若松区赤島町 白山神社

正面

献

裏面

慶應元年

乙丑九月吉日

平野彦吉信義

70日吉神社鳥居 若松区頓田 日吉神社

右柱

奉再建

大宮司従五位下伊高阿波守藤原朝臣敏雄

品川道伯信健
半兵衛

市平 安治

勘之門 利覺

伊吉

九平

惣平

治四郎

利平

和平

善十

丈助

勘治郎

孫作

傳之門

彌三郎

伊平

正面額

日吉神社

左柱

慶應元年乙丑十一月吉日

村長 重住勘治徳信

組頭 勘八 武吉

同 傳三 傳治郎

山之口 孫平 善作

世話人 茂兵 孫十

勘十 丈平

甚五郎 宗吉

又平 孫エ門

丈八 半三

彦四郎 惣治郎

半十

半次郎

定平

藤市

作平

利四男

権平

安エ門

喜太郎

71 水盤 若松区内小竹 沖津神社

慶應二歳丙寅八月

永代寄進連中

世話人 與作

利藏

榮次郎

作助

72 水盤 若松区東二島一丁目16 日吉神社

献 慶應三丁卯春日

本村若者中

雜記 本村は二島村のこと。

73 狛犬 (一対) 若松区浜町一丁目2 恵比須神社境内

右側狛犬上台石右面

慶應三年卯十一月

正面

奉

左面

海上安全

裏面

庄屋

大庄屋格 許山準治義一

船支配役 瓜生佐平貞成

下台石右面

天神丸九十郎 妙見丸治作 金□丸□吉 万吉丸□治
大黒丸彦太郎 宮吉丸用吉 明神丸惣三郎 日吉丸□右衛門
有吉丸□治郎 住吉丸又□□ 石日丸友治 虎吉丸□□

〔この面の原文人名横一列〕

話 住齋丸六治郎 明神丸源太 住恵丸虎吉
人 永久丸助太郎 伊勢丸由次郎 天社丸為吉
天神丸信助
〔この面の原文人名横一列〕

正面

万通丸政右衛門 栗永丸信太郎 稲荷丸定治 住吉丸喜七
寶永丸宗治郎 長福丸治右衛門 徳力丸太一 恵比須丸用平
大國丸藤七 直吉丸□蔵 金比羅丸熊□ 長運丸清次郎
□□丸儀平 國虎丸又吾 恵比須丸得平

〔この面の原文人名一横列〕

左面

三社丸市三郎 幸永丸太三郎 國屋丸太郎 豊國丸□次郎
住吉丸又一 稲荷丸太七 天神丸徳七 天神丸甚右衛門
稲吉丸惣十 天社丸清太郎 蛭子丸久八 恵壽丸□吉

〔この面の原文人名一列〕

左側狛犬上台石右面

家内繁昌

正面

献

左面

長州赤間關
大森勝助齋門次男
石工王司町万石屋定五郎

裏面

世 萬屋佐四郎

住吉丸藤五郎

日出丸又吉

正面

魚屋松七 不動丸吉平 神社丸十蔵 蓬萊丸久吉
明神丸源三 三社丸光平 天神丸市平 國徳丸卯太良
八幡丸市兵衛 天神丸清七 豊若丸富蔵 金比羅丸甚三
万吉丸和平 福吉丸弥五郎 神清丸利七

〔この面の原文人名一列〕

左面

大黒丸久吉 日高丸太右衛門 天神丸熊治 蛭子丸千吉
住吉丸藤助 小吉丸芳平 永徳丸源助 福吉丸才吉
壽福丸政吉 壽永丸國右衛門 洋吉丸浦平 恵比須丸清吉

〔この面の原文人名横一列〕

裏面

恵吉丸治□蔵 妙見丸□作 隻丸伊□吉 万永丸□平
長永丸□吉 高瀬屋□郎 萬屋□□ 伊勢丸金之助
灰屋□□□ 田島屋久蔵 〔この面の原文人名横一列〕

74 猿田彦太神

若松区脇田

道端

右面

明治四辛未歳

十一月吉辰再建

正面

猿田彦太神

雑記 脇田から安屋への旧道の端にある。

75 漁場境石 八幡東区東田二丁目 4 北九州市立自然史歴史博物館保管

正面

従是西柏原浦抱

左面

従是東岩屋裏抱

雑記 昭和四十年頃まで当境石は北九州市若松区と芦屋町の境(夏井ヶ浜)に倒れていた。昭和五十年頃から所在がわからなくなっていたが、平成二十二年五月十二日偶然にも北九州市立自然史歴史博物館の敷地に移設展示されていることを知る。明治二十四年六月八日作成の「筑前國沿海四十六浦漁場圖の水流が当境石の本来の位置にあたる。当境石が江戸期にまで古くなるかどうかはさて置き、当境石の元位置は江戸期以来の魚場の基準となった場所を示すものである。

八幡西区篇一

33 不動明王 八幡西区永犬丸一丁目 10 観音堂

光背裏面

元禄七年甲戌年 小田村四良右門

若宮彦三良弥助

筑前国永犬丸村北谷

八月二十五日 開眼主真藏坊

雑記 永犬丸住の小田村氏は永禄の頃戸畑に本拠を構えていた小田村氏の一党とする向きもある。小田村氏の本流は佐賀県小城市に在住。当金石文は北九州市の金石文集成二(八幡西区篇)に収録しておいたが、所在地および所蔵施設に誤りがあった。ここに訂正しておく。なお、管理者によると、観音堂内にある無量寺の表札は昭和三十年代に他から持ち込まれたものとのことである。

107 勧養道喜居士靈墓 八幡西区舟町 大日寺
寛永二十年□□□日
捐館 勧養道喜居士 覺禿
□□回□□六月六日□□

雑記 井上五郎右衛門道喜の墓と聞く。元位置は八幡西区泉ヶ浦一丁目 6 (字魚人浦) である。寛永期には圭頭墓は造られていない。壹百回忌の供養にともなう建立か。

108 玄峯正通居士墓 八幡西区本城 共同墓地(杉野家墓地か)

正面

寛永九^{壬申}歲五月日

玄峰正通居士

孝曾孫大野久太夫氏興建□

裏面

豫州河野浜大野久太夫氏重全道休也之墓

此氏重之武功大覽十道代之軍十亮□生

忠豊州石垣原致光登義統之有司衛□□

十右衛門矣

雑記 大野久太夫氏重の墓である。ただし、百回忌であろうか後年に建て替えられている。氏重は大野左馬右衛門直吉の息子で、慶長五年豊後国石垣原合戦に功あり、五百石を賜る。翌年筑前国遠賀郡本城村に七百石を賜り、井上之房の与力となる。地元民によると氏重は杉野家から嫁をもらったという。

109 鰐口 八幡西区三ツ頭一丁目11-20 遍照院

嘉永元戌申年十一月吉日

奉掛御宝前 (横書き)

武州足立郡中丸村氏子中

雑記 当品は戦後の購入品と思われる。

110 筆塚 八幡西区岡田町一丁目29 長尾廟境内

大池不三居士

おいはいと名こる

おもひや弥生雪

安政五戊午歲九月十四日

雑記 筆の形をした風流仁の墓である。本来の位置から移されている。